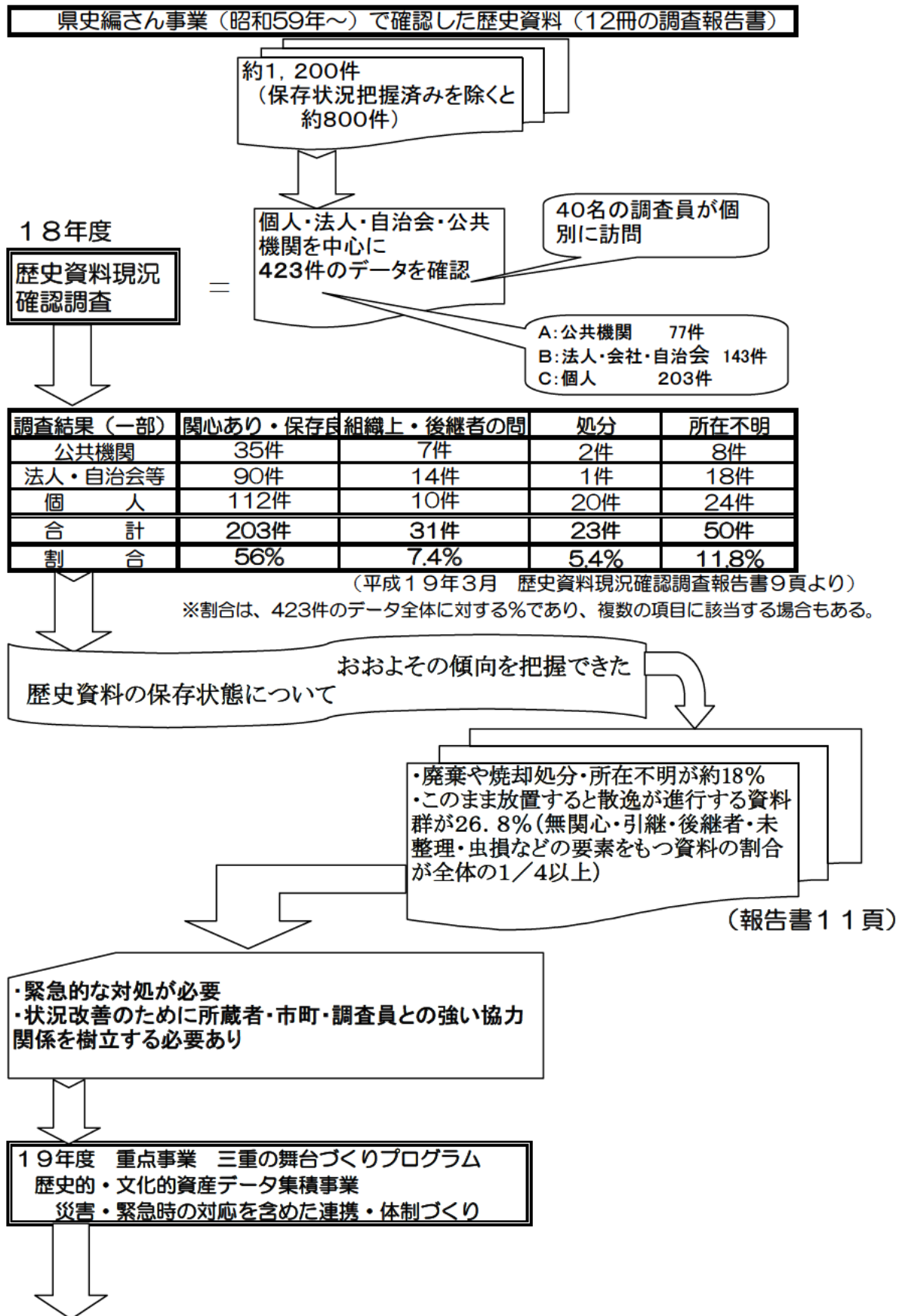


### 別紙3 三重県内における歴史資料の現状と課題



## 歴史資料保存活用連絡会議を開催

平成19年9月～10月

・18年度現況調査の結果報告  
・歴史資料としての公文書保存の必要性の説明  
・散逸の危険性のある資料の情報交換  
・ネットワークづくりに向けての意見交換

7地区(四日市庁舎・栄町庁舎・松阪庁舎・伊勢庁舎・伊賀庁舎・尾鷲庁舎・熊野庁舎)に各市町総務文書担当・教育委員会文化財担当、現況確認調査員の出席を依頼。25市町74名が参加。

## ◎ 歴史資料の認識(公文書に対する各市町の認識)

- ① ・ほとんどの市町で文書管理規程は整備されているが、永久保存文書や廃棄文書に対して歴史資料として保存する公文書の選別・保管という意識は非常に低い。
- ② ・現用文書の保管は、総務課で一括している市町と各課で対応している市町と様々であるが、廃棄に関しては各課に任されている場合が多い。
- ③ ・平成の合併前の旧役場文書は、各支所等で保管されているところがほとんどであるが、今後建物の改築や建て替えがあったときに廃棄される危険性がある。
- ④ ・昭和の大合併以前の公文書は、残っている市町が少ない。残っている市町でも保存対策を講じている場合が少ない。

## ◎ 調査員からの意見・感想

- ① ・市町の範囲が大きくなり、スムーズに調査が行えない時があった。
- ② ・旧町村の文書が支所等にとりあえず保管されているが、建て替え等があると廃棄される危険性があり、管理をきちんとしておく必要がある。
- ③ ・自治会や団体で、引き継ぎがうまく行われていない場合がある。
- ④ ・個人の所有で高齢化による跡継ぎ問題がみられる場合がある。
- ⑤ ・今回のような会議は初めてだと思うが、今後も続けてほしい。
- ⑥ ・旧市町村の資料について、管理や閲覧について相談できる文化財担当者が身近にいないので不便な時がある。

## ◎ 今後の課題

- ① ・連絡会議の継続。研修会等による歴史資料への意識の高揚。
- ② ・災害等への対応マニュアルづくり
- ③ ・高齢化・引き継ぎ等の課題のある所蔵者への散逸防止のための緊急対応